私の武道合気道を考える

2011 年 8 月 12 日
栗　林　征　喜

　合気道は日本の伝統文化である武道の一つであることは誰もが知っていることでしょう。一般に、武道は「人を殺す」道具と短絡的に捉えられ、殺伐とした負の印象を与えることが多いと思います。武道に対する偏った認識が今の日本のおおかたの受け取り方だと思います。しかし、古くから日本は「武」を天地創世の原因であり、一切の根本であるとして大事に扱ってきました。当然武は戦いを意味するものでなく「産」と同義であり、したがって「愛」であると教えてきました。遙か古い時代に出来た日本の英知です。
合気道は人と勝ち負けを争わず、精神を養うことに目的を置く真の武道です。相手と自分の心身の動きを合わせ、相手と調和し、自他一体の状態に至ることを目標にしています。
　開祖は合気道に『愛』の概念を置き「人を生かす平和な武道」として社会に示されてきました。『人は宇宙から授けられて人間本来の美しい魂を持っている。しかし、人はこれに気づかずに過ごしてしまう。人間の生きる目的はその発見と開発にあり、そのためにおこなう修行を「みそぎ」であるとし、そのために合気道は生まれた。』と開祖は述べています。武道の本質を表現させたのが合気道であると説いています。
武道は本質的には平和を求めるものでありながら、それが曲げられて宣伝され、武道は怖いものという観念を人に植え付けてきたかもしれません。
たしかに現在でも合気道の稽古に、人を「崩す・倒す・斬る」という言葉を聞くことは少なくありません。開祖の教えを理解できない指導者もまだまだ多いのでしょう。
合気道を武道としてよりも人を害する「格闘技」であることに重きを置き、武術・武芸とはき違えるかのごとく、誤った解釈をする指導者がまだまだ多いことを示しています。
私達は「武道」の本質をもっと求め、その上で開祖の創造の心の理解に努め、「人を生かす合気道」を求めて鍛練を積んで行かなければなりません。そしてその合気こそが老若男女全てが平等に修行できる合気道になるはずです。
　開祖の『合気道は愛』とはどういう教えか、「武産合気」とは何かをあらためてよく考える必要があります。人を害する解釈に偏らないよう、合気道の原点を振り返らなければならないと感じます。
　日本人が創った最高の文化「合気道」をもっと沢山の日本人に触れてもらいたいと願わずにいられません。